

「昨シーズンのインフルエンザ感染症を振り返って

～2025-2026 シーズンの戦略～」

関西医科大学附属病院 呼吸器感染症・アレルギー科

宮下 修行 先生

初めに、結核・呼吸器感染症予防週間についてご紹介があり、ワクチンを含めた呼吸器感染症の予防を学会で進めていることのご紹介があった。

次に COVID-19 とインフルエンザの違いについてお話された。日本全体では 2024 年に COVID-19 関連死者数が 35,865 名、インフルエンザ関連死亡者数は 2,855 名であり、COVID-19 の方が予後不良である。2024-2025 シーズンでは H1N1pdm が大流行し、小児の脳症も多かった。ご自分のデータから、COVID-19 は免疫抑制剤の使用者や悪性腫瘍など、インフルエンザよりも予後不良因子を持つ方が多かった。COVID-19、インフルエンザともに入院の約半数が肺炎であるが、COVID-19 では医療・介護関連肺炎が多いが、インフルエンザでは市中肺炎が多い。入院呼吸器管理・ICU 入室割合は COVID-19 の方が、インフルエンザより多い。COVID-19 もインフルエンザも重症化予防はワクチンと抗ウイルス薬使用が重要である。

インフルエンザは self-limit の疾患であるが、風邪とは違い、重症化することがある。日本感染症学会はインフルエンザ患者には抗インフルエンザ薬による早期からの治療を積極的に行うべき、と 2009 年 9 月 15 日に発表している。その後の 2009-2010 シーズンのパンデミックでは他国と比較し、日本におけるインフルエンザ関連の死亡率が圧倒的に低かったことから、この考えは正しかった、と考えられている。早期から抗ウイルス薬を使用することにより、重症化回避を図ることが考慮される。

インフルエンザは二次細菌性肺炎を起こすことがあり、起因菌としては肺炎球菌が多い。そのため、肺炎球菌ワクチン接種も重要である。最近、コンジュゲート(結合型)ワクチンが使用可能になってきた。

日本人はワクチンリテラシーが低いと言われている。インフルエンザの合

併症には心筋梗塞や肺炎があり、重症になることがあるため、ワクチンによる予防が重要である。

ただし、日本から、特に 80 歳以上の高齢者ではインフルエンザワクチンの感染予防効果が低いというデータが発表された。今後、高容量インフルエンザワクチンの効果が期待される。ワクチンで予防できる肺炎等の疾患を発症するとフレイルとなり、その結果認知症となることがあるため、ワクチンで防げる感染症に対しては、認知症にならないためにもワクチン接種が重要となる。

最後にもう一度、インフルエンザや COVID-19 のような重症になりうるウイルス感染症に対しては、ワクチン接種と抗ウイルス薬投与が重要である、とまとめられた。

(福井大学感染症学講座 酒巻一平)